

怪盗フラクタル

辻真先

Masaki Tsuji



最初の挨拶

講談社
NOVEL



N. D. C. 913 214p 18cm

怪盗^{かいとう}フラクタル 最初の挨拶^{さいしよ あいさつ}

一九九七年六月五日 第一刷発行

KODANSHA NOVELS

定価はカバーに
表示してあります

著者—辻^{つじ}真先^{まさき} © MASAKI TSUJI 1997 Printed in Japan

発行者—野間佐和子

発行所—株式会社講談社

東京都文京区音羽二—二—二 郵便番号 一—二—〇 編集部 〇三—五—三九五—三五〇六

販売部 〇三—五—三九五—三六二六

製作部 〇三—五—三九五—三六一五

印刷所—豊国印刷株式会社 製本所—有限会社中澤製本所

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部にてお送りください。送料小社負担にてお取替え致します。
なお、この本についてのお問い合わせは文芸図書第三出版部にてお願い致します。
本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

ISBN4-06-181968-2 (文三)

怪盗フラクタル

辻真

学院图书馆
书章

Masashi Tsuji



最初の挨拶

講談社
NOVEL





ISBN4-06-181968-2

C0293 ¥740E (0)



1920293007403

定価：本体740円

※消費税が別に加算されます。

怪盗フラクタル 最初の挨拶

辻 真先

鮮やかな犯行を繰り返す“怪盗フラクタル”から届
けられた手紙——映画監督・友永のオープンセットか
ら、巨匠縁ゆかりのものをいただく——。名探偵・安西英作あんざいえいさく
はセットのある瀬戸内の島に赴く。だが、島では集め
られた関係者が次々に不可解な死を遂げていく……。
名手・辻真先の二重三重の仕掛けの妙をご賞味あれ。

処理済

怪盗フラクトル最初の挨拶

江真先

KODANSHA NOVELS

講談社
ノベルス

ブックデザイン 熊谷博人
カバーデザイン 辰巳四郎

怪盗フラクタル 最初の挨拶

目次

INTRODUCTION.....9

STAFF.....11

CAST.....12

MAP.....14

STORY

SOURCE 1.....15

SOURCE 2.....22

SOURCE 3.....28

SOURCE 4.....34

SOURCE 5.....41

SOURCE 6.....57

SOURCE 7.....66

SOEWZU	8	76
SOEWZU	9	80
SOEWZU	10	97
SOEWZU	11	108
SOEWZU	12	116
SOEWZU	13	140
SOEWZU	14	157
INTERVAL	168	
SOEWZU	15	171
SOEWZU	16	199
SOEWZU	17	207

INTRODUCTION

ホームズ、ポワロ、明智小五郎をはじめとする名探偵ものがミステリー一方の主流をなしているにもかかわらず、彼らに拮抗^{きっこう}すべき名犯人のキャラクターは、あまりに寥々^{りようりよう}たるものがある。わずかにルパンや二十面相が孤軍奮闘するにとどまる現状を嘆いて、ここに登場したのが怪盗を自認するわがフラクタルである。

フラクタルとはなにか。

広辞苑によれば「どんなに微小な部分をとっても全体に相似しているような図形」であり、マイペディアによれば「IBM社のB・B・マルデルブローが自己相似性という特殊な性質をもつ幾何学的図形に与えた名称」である。従来の規範にきわめて適合しにくい図形だが、コンピューターによって精確に描出することができ、さらに自然界に出現する雲や海辺などの形をフラクタルとしてとらえられるようになった。

つまり怪盗フラクタルとは、複雑でありながら水の流れるように自然体の犯罪行為をや

つてのける人物、とても要約すればいいだろうか。

もつとも彼にフラクタルのニックネームを与えたのは、マスコミであつた。犯行の都度サイン代わりにこのされるカードに、コンピュータグラフィックで描いた奇怪なパターンが印刷されていたからに過ぎないのだが、怪盗本人もこのあだ名が気に入つたとみえ、いまではマスコミや警察宛の信書で「フラクタル」と名乗っている。

このささやかな殺人の物語は、フラクタルと彼の好敵手安西英作あんざい えいさくが織りなす、愛と恐怖の冒険譚ぼうけんたんのひとコマとして、幅広いミステリー愛好の読者に提供される。

STAFF

企画	宇山 日出臣
編集	佐々木 健夫
装画	辰巳 四郎
作図	堀越三昧堂
著作	辻 真 先
印刷	豊国印刷(株)
製本	(有)中澤製本所
発行	(株)講談社

CAST

安西^{あんざい} 英作^{えいさく}

——もと警視庁警部。事情あって五年前に辞職して、現在は探偵事務所を開いている。警察がもてあました怪事件、難事件をつぎつぎと解決して、名探偵の令名^{れいめい}が高い。

安西^{あんざい} 日香里^{ひかり}

——高校二年生だが、のびやかな肢体と美貌にふさわしく、性格は奔放で、父親をいつもはらはらさせている。本人はいささかファザコンの気味がある、と称しているが。

宮城^{みやぎ} 綾美^{あやみ}

——リゾート用地売買を専業とする宮城プロモーションの代表。熟年の美女である。映画界最大の巨匠であつた友永監督^{ともなが}のファンなのだが、仕事のかかわりで、彼ののこした巨大なセットを管理している。

宮城^{みやぎ} 清光^{きよみつ}

——綾美の息子で日香里のクラスメートだった美形の優等生。母親と日香里の父を結びつけようという魂胆^{こんたん}もあるらしいが、それ以上に彼自

身が日香里に強い関心を寄せている。

田原 功司

綾美の秘書。交通事故で顔に深い傷を負ったため、一線をしりぞいた。船舶操縦と料理の腕は変わらず、現在は瀬戸内の小島で綾美の別荘番を勤めている。世捨て人同然といっている。

有馬 篤太郎

かつて友永監督と名コンビを組んでいたカメラマン。無口な初老の男で狷介な印象をあたえるものの、古い映画の話をさせると見違えるほど情熱的になり、人々を圧倒する。

室生 肇

友永組の末期についた助監督。なん本かのO Vを撮る機会を得て好成績をあげ、メジャー企業が提供する劇場映画から注文もきて、いま上り調子の若手監督である。

明科 和夫

やはり友永組の先輩助監督。ひよろ長い体と前歯の目立つ働き者。熱烈な友永信者だったが、巨匠が行方不明になって以後は、映画からまったく足を洗った。

榎 定二

おなじく助監督。現在も映像分野のアルバイトで食っている。人がいいだけの男なので、監督昇進を半ば諦めながら情性でこの道を歩きつづけている。

フラクタル — ?

MAP

本土への
航路

雌島

雄島

トボロこつななる

船着場

倉庫

集落の
セツト

コテージ

N
4

STORY

SCENE 1

愛用しているロンソンのパイプをくわえた安西英作は、ウィンザーのロッキンゲチェアに体を納めて、ゆったりとした気分で庭にそぼ降る雨をながめていた。フランス窓のガラスが分厚いため、雨音はまったく聞こえない。煉瓦積み^{れんがづみ}のテラスの西の隅に飛沫^{しぶき}があがっている。パーゴラと屋根の間に這^はわせた樋^とが、こわれかかっているようだ。明日にも顔見知りの職人にたのんで、修理させようと思う。もっ

とも、今夜訪れる予定の客に強引に仕事をたのまれたら、そんな暇はなくなるだろうが。ようやく事件がひとつ解決して、ご最^{ひい}原^きのスコッチと仲良くなれそうだというのに、無粋な闖入者^{ちんにゅうしや}である。日香^{ひかり}里の紹介でなかったら、手っとり早く電話で断るところだった。

ボトルが林立するバーワゴンに手をのばした探偵は、ステイックに刺した田舎沢庵^{いなかたくあん}を口にほうりこんだ。

「またそんなおつまみを食べてる」

娘の日香里がこの場にいたら、きっと文句をつけに違いない。子煩悩^{こばんのう}な英作だが、沢庵に関するかぎり決して譲るつもりはなかった。

「これは私が愛する日本版のピクルスだ。スコッチの合いの手にピクルスをつまんで、なにがわるい？」

そう切り返してやるつもりでいた。あいにく今夜は日香里はおでかけだ。依頼者の宮城という少年と